

【資料 1】

在宅医療介護連携推進協議会

令和6年3月28日（木）

令和5年度 入退院調整部会での取組結果



「入退院時の病院とケアマネジャーの連携」に向けて

取り組み方針

目的

介護を必要とする患者が自宅等へ退院する際に、病院のスタッフと居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）等の関係者間で必要な情報を共有することで、久留米市内のどの医療機関から退院しても、安心して在宅療養生活を送ることができる。



平成28年度に、在宅医療・介護連携推進協議会の下部組織として「**入退院調整部会**」を設置し、具体的な取り組みの検討を行う。

令和5年度 久留米市入退院調整部会委員

部会長	西田 千代香	(NPO法人久留米市介護福祉サービス事業者協議会介護支援専門員部会)
	赤川 ゆかり	〃
	中村 祐子	〃
副会長	青木 正恵	(NPO法人久留米市介護福祉サービス事業者協議会ソーシャルワーカー部会)
	松本 弥生	〃
	中島 由香里	〃

【助言者】

荒木 昭輝 氏

聖マリア病院 地域連携担当／情報システムアドバイザー（久留米医師会 理事）

久留米市の現状

令和4年度 入退院時連携状況調査結果

■調査対象者

- (1) 市内の居宅介護支援事業所などに所属するケアマネジャー
- (2) 市内の地域連携部がある病院

■結果評価

・コロナ禍では対面での連携が制限されており、ケアマネジャー、病院ともにこれまで以上に**密な連携**や**関係性の構築**の重要性を感じている。

また連携の質を保つためにWeb 会議の活用を図るなど各機関ごとに様々な工夫がされており、これらを情報共有することが重要。

・今後取り組みたいことや課題として、**入退院調整ルールの様式**や**ICT ツール**等の活用についての意見も挙げられており、今後検討する必要がある。

部会の開催状況

■ **開催日**：令和6年3月15日(金)

■ **検討内容**：

病院のスタッフとケアマネジャーが連携を図りやすくするための「久留米版入退院調整ルール」の手引きの改訂について検討。

主に、ケアマネジャーが医療機関に患者の情報を提供する際の**入退院調整ルールの様式**や**ICTツールの活用**に関することについて協議。



〔令和5年度の検討結果〕

荒木医師から、先進事例として「はこだて医療・介護連携サマリー」やくるめ診療情報ネットワーク（アザレアネット）の活用について情報提供あり。



様式やICTツールの活用について引き続き協議する。

【協議事項】：次年度以降の方針（案）

- 病院のスタッフとケアマネジャーの双方が、より活用していきやすいように、**入退院調整ルールの様式**や**ICTツールの活用**について検討する。
- 在宅医療介護連携に関する診療報酬・介護報酬等の情報を盛り込むなど、入退院調整ルールの手引きの改訂について検討する。